

令和2年度 連携研究スキームによる研究（委託研究課題）
研究成果等概要報告書

		課題番号	20353867
研究テーマ名	ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障のあり方に関する研究のうち「国産農水産物の国内外の需要動向を踏まえた供給体制に関する研究」		
委託研究課題名	国内外の諸制度を踏まえた国産水産物の供給体制の構築に関する研究		
研究実施期間（西暦）	2020年度～2022年度（3年間）		
中核機関・研究総括者	東京海洋大学 妻 小波		

1 研究の進捗状況等

本研究では、中長期的な視点から、漁業管理体制の基盤整備、加工流通技術の革新、輸出振興戦略の強化等にもとづき、国内水産業の成長産業化を見据えた国産水産物の適切なサプライチェーンを構築するための方策を提言することを目的としている。2020年度では参画研究者のネットワークを構築し、研究会(計5回)を開催して、以下の三つの項目について研究を実施した。

① 国内生産体制の強化を目指す漁業管理体制の基盤整備に関する分析

国内外の漁業管理制度に関する基礎資料の収集、管理制度の類型化により、TAC制度を位置づけた。また、生産性を評価するための基本的な考え方に関する既存文献を整理し、漁業の生産性を評価するための諸指標について検討を行った。さらに、伊勢湾の底曳き網漁業において開発された漁獲量予測モデルに、最新のデータを適用した高度化を行うとともに、この漁獲モデルの他の海域への適用可能性について検討した。

② 円滑な供給を目指す国内加工流通システムのイノベーションと実用化に関する分析

急速解凍技術や鮮度保持技術等の技術について、水産加工技術のイノベーションに寄与する可能性や実用化における制約要因及び必要条件を検討した。また、水産物流通システムの変化の実態を把握するとともに、今後の水産物の安定供給と輸出競争力の強化に寄与しうられる新たな4つの流通システムを抽出した。

③ 今後の成長化が見込まれる主要品目の輸出競争力強化に向けた市場分析

養殖の成長産業化により輸出振興が期待されるマダイに関して、統計情報の整理、現地調査等により、その生産及び輸出入に関する情報を収集した。また、水産物の消費が拡大しているアメリカ市場、中国市場における日本産水産物及び東南アジア由来の水産物のマー

ケットに関する基礎的情報を収集した。さらに、日本発のエコラベルである MEL 認証について、制度的特質にかかわる資料を収集した。加えて、海外主要輸出品目の生産と輸出入動向、国内水産物の輸出振興戦略にかかわる基礎的情報を収集した。

成果の発表

発表者	表題	発表誌、巻号	発表年月
李朋龍・大石太郎	日本の水産物貿易の規程要因 ー重力モデルによる分析ー	『令和3年度 日本水産 学会 春季大会』	2021 年 3 月発表 予定、要旨提出 済み
大石太郎	水産物エコラベルのフード チェーンの経済分析と今後の課 題	『アグリバイオ』第 4 巻 第 13 号、pp.59-63	2020 年 12 月
婁小波	中国における生鮮食品電子商 取引の展開と課題(1)	『アクアネット』第 24 巻 第 1 号、pp.52-57	2021 年 1 月
婁小波	中国における生鮮食品電子商 取引の展開と課題(2)	『アクアネット』第 24 巻 第 3 号	2021 年 3 月(掲 載予定)